

Europe Indicators

発表日: 2023 年 2 月 13 日(月)

欧州経済指標コメント: 10-12 月期英国GDP速報

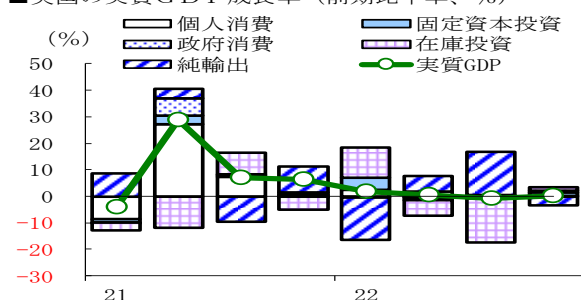
～辛うじて景気後退を回避～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

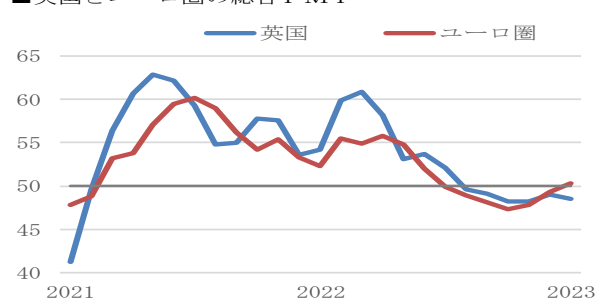
- 10日に発表された昨年10～12月期の英国の実質GDP成長率の速報値は前期比横ばい、同年率+0.1%と辛うじてプラス成長となり、2四半期連続マイナス成長のテクニカル・リセッションをどうにか回避した。ストライキや寒波の影響で、12月の月次GDPは前月比▲0.6%と大幅に落ち込んだが、エリザベス女王崩御の影響による7～9月期のマイナス成長の反動に助けられた。
- 10～12月期の需要項目別内訳は、個人消費（前期比+0.1%）、政府消費（同+0.8%）、設備投資（同+4.8%）、公共投資（同+1.8%）が増加した一方、住宅投資（同▲4.2%）と輸出（同▲1.0%）が足を引っ張った。個人消費と設備投資の増加は前期の反動が中心で、力強さはない。
- 年明け以降、大陸欧州諸国ではエネルギー不足回避やガス価格の沈静化を受け、景気見通しが大幅に改善。これに対して、英国では昨年10月以降、エネルギー料金の上限価格を凍結しているため、足許のエネルギー市況軟化の影響が大陸欧州諸国ほど出ていない。こうした経済環境の違いは1月のPMIからも確認され、ユーロ圏の総合指数が7ヶ月振りに好不況の分岐点である50超を回復したのに対して、英国は前月から悪化モメンタムが一段と拡大し、6ヶ月連続の50割れ。
- 1～3月期の英国経済がマイナス成長を回避するには、1～3月の各月の月次GDPが平均で前月比+0.17%以上の成長とならなければならない。12月の落ち込みの反動で1月はプラス成長への回復が予想されるものの、年明け以降もストライキによる経済活動への下押しが続いており、1～3月期は小幅マイナス成長への再転落を予想する。

■英国の実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英統計局

■英国とユーロ圏の総合PMI



出所：S&P Global

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
				個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫		輸出	輸入
21/1-3月期	▲ 1.3	▲ 4.1	(▲ 12.8)	▲ 13.6	▲ 0.6	▲ 6.4	(7.8)	(8.6)	▲ 15.8	▲ 34.3
21/4-6月期	19.4	28.8	(25.0)	48.3	34.4	17.2	(▲ 74.9)	(3.8)	▲ 28.1	12.8
21/7-9月期	11.2	7.1	(16.6)	12.0	1.7	3.7	(▲ 0.7)	(▲ 9.5)	▲ 14.8	18.8
21/10-12月期	11.1	6.2	(▲ 3.3)	0.9	5.2	▲ 1.6	(▲ 7.7)	(9.5)	62.0	17.4
22/1-3月期	8.9	1.8	(18.1)	4.0	▲ 1.6	28.2	(▲ 12.5)	(▲ 16.2)	▲ 24.0	32.5
22/4-6月期	7.3	0.4	(▲ 5.4)	2.9	▲ 5.7	▲ 2.2	(▲ 0.5)	(5.9)	22.5	0.7
22/7-9月期	6.5	▲ 0.7	(▲ 16.8)	▲ 1.4	2.1	1.2	(▲ 18.7)	(16.1)	43.1	▲ 11.3
22/10-12月期	5.3	0.1	(3.3)	0.4	3.2	6.3	(▲ 6.6)	(▲ 3.3)	▲ 4.0	6.1

出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



株式会社 第一生命経済研究所

Europe Indicators / 定例経済指標レポート